

たのです。まさに叫ばれたのでした。誰でもすぐ使えるようなわかりやすい簡単な方法はないかと思ひ、十三年間、頭を去らなかつたといわれたのです。私の方法をちよつと聞かれただけで、十三年間の悩みが一挙に解決されたとお思ひになつたのだらうと思つたのでした。簡易に速く書く方法はないかと思ひ、大きな事務機械を買つたが、それはだめだつた。ドイツから小型の機械を買つてソニーにこんなのをつくつたらどうかといつたが、それもいけなかつた。今日まで十三年間念頭を離れなかつたといわれたのでした。私はびつくりするとともに、「素晴らしい將軍だ」と思つて非常に感銘を深くしたのでした。

それから師団で講演したときは大勢の隊員を集められ、ご自分で紹介をされ、師団内でスピードメモ法を使い、命令伝達の競技会を開かれたり、毎週の幹部訓練通報はスピードメモ法で書かせられたのでした。

この幹部訓練通報を書いていた人は清田孝平三佐でした。この方が師団のカウンセラー室の主任になつておられるとき、その部屋の黒板に日程が書いてあり、その中に「し」というのがあつたのです。これは何ですかといつてお尋ねすると、「習字」の日だといわれたのです。「し」はスピードメモ法では「ウ」を付けて「シウ・・・シユウ」と読むので、「習字」と書く代りに、それを使って書いてあつたのです。またこの当時、副師団長をしておられた大槻光武将補が陸将に昇任、久留米の幹部候補生の学

校長になられたときです。その学校に講演に行つたのですが、第十師団でよく知つておられたので職員、